

12月の利上げは確定的、パウエルFRBでの利上げ動向にも影響～米消費者物価指数

2017年11月14日(火)

今年もあと2か月弱。そろそろ来年の動向も気になりだすころに。
12月の米FOMCでの利上げが確定的となる中、来年も緩やかなペースでの利上げが期待されています。
イエレン議長ほどハト派ではないといわれる、パウエル次期FRB議長(現理事)。
雇用と物価というFRBの二大責務の状況に応じて
堅実な対応を行ってくと期待されています。

来年の1月末のFOMCまでが現在のイエレン議長の下でのFOMCとなり
3月以降、来年の残り7回がパウエル次期議長下でのFOMCとなります。

今のところ、12月12日、13日のFOMCでの利上げはほぼ確定的。
北米最大の金融・商品のデリバティブ取引所CMEによる
金利先物市場動向から見た12月の利上げ確率は91.5%。
FF金利先物の中央値から計算された利上げ確率は100%となっています。

1月の追加利上げはこれまでの姿勢からまずあり得ませんので、
注目はその後を任されたパウエル議長の下での2018年残り7回での利上げ。

パウエル次期議長下での最初のFOMCとなる3月のFOMCで利上げする確率は
CMEFedWatch、FF金利先物中央値計算ベースともに45%程度。
その後確率が上がっていったら、来年中少なくとも1回の利上げは約80%。
二回以上の利上げは40%程度の見通しとなっています。

9月のFOMCで示された参加メンバー
(議長・副議長を含むFRB理事と投票権の有無にかかわらず地区連銀総裁全て)による
政策金利見通しを見ると、来年中に3回の利上げを見込む動きが中央値。
株式・為替市場での見通しは来年中2回もしくは3回ということで
金利市場よりも少し強気です(金利市場は現状に近い方に寄る傾向があるので自然な動き)。

前置きが長くなりましたが、
こうした状況に大きな影響を与えるのが、FRBの二大責務である雇用の最大化と物価の安定。
雇用についてはなんだかんだと堅調ですから
注目は2%をインフレターゲットとする物価動向がかなり大きな影響を与えると見られます。

今後はこれまで以上に物価動向への注目が集まりそう。
米国のインフレターゲットの対象はPCEデフレーターで他のほとんどの国のように消費者物価指数(CPI)ではありませんが
PCEデフレーターは集計が複雑な分、発表までに時間がかかるため
先に発表され、水準は違うものの傾向は似通ったものとなるCPIに注目が集まります。

15日22時半に発表される10月の米消費者物価指数(CPI)は、前年比が+2.0%と9月の2.2%から低下見込み、
もっとも食品やエネルギー除くコアは前年比+1.7%と9月と同水準。
10月は9月に比べてガソリンの値段が全米全種平均で5%ほど下がっており(EIA調べ)
総合でのインフレ鈍化につながりましたが、コアでは堅調を維持しているようです。
とはいえ、インフレターゲットはであるPCEはCPIよりも低く出ることを考慮するとやや厳しい水準です。
予想をさらに下回る数字が出てくると
いったんドル売りの動きも予想されるため要注意です。

なお、同時刻には10月の米鉱売上高も発表されます。
予想は前月比+0.1%と9月の+1.6%から大幅減。
自動車を除くコアも+0.2%と、9月の+1.0%から大幅減となります。

ただ、これはハリケーンの影響(壊れた車の買い替え需要など)で
9月分が相当高めに出了反動です。
9月は2015年3月以来の高水準となっており、
その分の反動がまともに出る格好です。
また、上記したようにガソリン価格が10月に一気に落ちており
ガソリンスタンド売上が減少することも予想値を押し下げています。
このように要因がしっかりわかっているだけに影響は限定的も、
前月比でマイナスまで落ち込むと印象が悪くなりますので
CPIの数字と合わせて気を付けたいところです。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ